

(27) 有識者へのヒアリング（その4）

■ 団体及び人とのネットワークづくりをスタートに、地域の景観形成に取り組む

／特定非営利活動法人 日本都市計画家協会

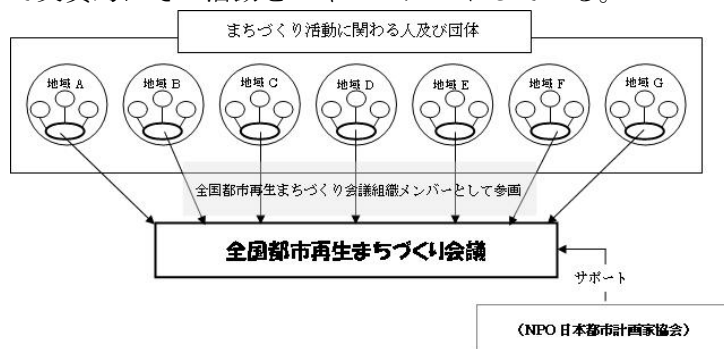
取組の概要

- まちづくり活動に関わる「個人及び団体」が交流を通じて情報交換、人的交流を図ることが活動の柱の一つ。
- このような活動を通して、全国各地の団体と具体的な景観形成の取組を展開。
 - 商店街における美しいまちづくり（東京商工会議所と協働）
 - まちづくり団体への専門家派遣（福岡環境緑化を考える会と協働）

【主な取り組み】

① 「草の根まちづくり団体間の交流支援」が活動の柱の一つ

- 専門家組織として始まったが、「まちに暮らす人や働く人たちみんなが、自分のこととして手を携えて取り組んでこそ、良いまちになる」という認識から 2001 年に NPO 法人化。会員の約 4 割が専門家以外の一般の人々。
- 近年取り組みを開始した活動の柱の一つは、「全国都市再生まちづくり会議」である。この取組みは、全国各地の草の根まちづくり団体が互いに連携し、情報を交換発信することが目的に、全国の草の根まちづくり組織や人材が一同に会する全国大会を行うものあり、協会は、事務局として実質的にその活動をマネジメントしている。



② シンポジウムを中心とした景観の普及啓発活動が具体的取り組みに展開

- まちづくりを考える上で、景観に関心のある団体を集めて、共通のネットワークや土台をつくるという発想で「美しいまちづくり・日本」運動を開始。
- 「美しいまちづくり・日本」は一般市民を対象とした普及啓発活動であり、シンポジウムを愛知県の名古屋市・犬山市で開催。この活動により地域の団体等と連携した取り組みが展開。



東京商工会議所との協働の取組

- 商店街での美しいまちづくりの取組を東京商工会議所と共同で実施
- この活動は3名の調査員が商店街を評価し、それをもとに各商店街がアメニティ機能や公益機能など100項目程度の評価指標に基づき、合議により商店街の魅力の診断評価し、商店街のビジョンを作成

〇〇〇商店街 魅力・地域力診断表(イメージ)



日本屋根外装工事協会との協働の取組

- 日本屋根外装工事協会と協力し、ルーフスケープコンテントや、ルーフスケープシンポジウム、ルーフスケープ研究会を開催
- 日本ならではの美しい景観形成を進めるため、日本屋根外装工事協会と協力しながら、研究活動を実施、ルーフスケープコンテントや、ルーフスケープシンポジウムを開催している

環境緑化を考える会(まちづくり団体)との協働の取組

- 環境緑化を考える会は、花壇整備等を中心に活動を行っていた団体であり、家協会の活動が「地域活動の種を成長させる」きっかけとなった(シンポジウムでの伊藤滋先生の講演が刺激になる)
- 環境緑化を考える会とは共同で活動しており、家協会からは専門家派遣を実施

③ 地域住民による景観形成の「きっかけづくり」、「継続」には具体的な取組対象が必要

- 地域住民による景観形成を促進するためには、「景観に関心のある人や団体の活動を広げること」が重要になる。そのためには、例えば「生垣をつくる」など具体的な取り組みの対象が必要になる。

④ インターネットを通じたまちづくり団体等への悩み相談

- 協会ホームページに「まちづくり相談室」を設置。
- 家協会内で都市計画の専門家チームを組み、まちづくり団体等からの質問に対して、回答者を決めて対応する仕組み。
- 相談・回答の手順は、インターネットを通じたやり取りで相談内容を十分把握した上で、直接顔をあわせて話し合う。相談料は東京で行うときは無料、地元に行くときの交通費は相談者の負担(日当は協会負担)。

特定非営利活動法人 日本都市計画家協会

設立：1994年に任意団体として設立。2001年8月にNPO法人化

本部：東京都港区愛宕1丁目1番9号愛宕チャンピオンビル4階

組織：交流・広報委員会、事業委員会、職能特別委員会、各テーマごとの研究会、地域支部(北海道、横浜、静岡、関西)